

# 女子短大生の食行動に関する研究

—— 体型及び体重変動との関係 ——

石 田 妙 美

The Study of Eating Attitudes in the Women's Junior College Students

The Relationship Between the Eating Attitudes, Figures and Fluctuations of Weight.

Taemi Ishida

## 1. はじめに

近年増加している摂食障害では、治療中も過食や拒食を繰り返し慢性化しやすい。このため他の疾患同様、早期発見・早期治療が望まれている<sup>1)2)</sup>。また、多くの女性は青春期にアノレキシアかブリーミア（摂食障害）になるぎりぎりのところを歩き<sup>3)</sup>、本学においてもアノレキシアやその予備群と見られる学生数名に毎年出会っている。

筆者は、極端な体重変動がもたらす心理的特性について女子短大生を対象に検討し、1年間で5 kg以上の体重減少は、摂食障害早期発見の一つの目安になり得ると考えた<sup>4)5)</sup>。

今回は、むちゃ食い、食事制限、食後の嘔吐など摂食障害に特有の食行動をEAT-26 (The eating attitudes test-26) を用いて調査するとともに、体型および体重変動との関係についても検討した。

## 2. 研究方法

### (1) 対 象

対象は、本学1994年度の2年次生のうち、EAT-26に回答した1030名中、全項目回答した889名（平均年齢19.2歳）である。

### (2) 方 法

摂食態度調査表は、Garner<sup>6)</sup>らによるEAT-26の邦訳版を使用し、定期健康診断開始前の待ち時間に、記名のアンケート方式により調査を行った。

EAT-26は、異常度の高い上位3段階のみを3点法で採点し、26項目の合計点を算出した。

次に対象者のうち、1年間に5 kg以上減少した17名、1年間に5 kg以上増加した30名、標準体重 (BMI 22) の20%以上の痩せ (BMI 17.6以下) 55名、標準体重の20%以上の肥満 (BMI 26.4以上) 38名、EAT-26 20点以上の高得点者31名を抽出し、各群における対象者の1年間の体重変化量、EAT-26の得点および項目別頻度について、対象者全体の値と比較検討した。

### 3. 結 果

#### (1) 対象者の体型

表1は、対象者全体 (899名) の体型である。調査時の身長は $157.4 \pm 5.1$ cm、体重 $52.3 \pm 7.5$ kg、BMI  $21.1 \pm 2.8$ で、1年間の体重変化量は、 $0.4 \pm 2.9$ kgであった。

体重が5 kg以上減少した群は体重 $56.7 \pm 8.0$ kgで、危険率5%で有意であり、対象者全体より体重が多かった。また、5 kg以上減少群のBMI ( $23.6 \pm 4.0$ )、5 kg以上増加群の体重 ( $60.0 \pm 12.9$ kg) とBMI ( $24.2 \pm 4.7$ ) は危険率0.1%で有意であり、対象者全体より大きかった。

表1 対象者の体型

(n = 899)

		Mean	S. D.	max	min
1 年 次	身 長 cm	157.1	5.11	171.4	141.9
	体 重 kg	51.9	7.24	85.5	32.0
	B M I	21.0	2.77	35.1	12.5
2 年 次	身 長 cm	157.4	5.09	172.2	142.6
	体 重 kg	52.3	7.45	107.3	33.4
	B M I	21.1	2.79	43.1	13.8
1年間の身長変化量 cm		0.24	0.56	2.8	-6.7
1年間の体重変化量 kg		0.39	2.93	37.3	-15.9

Mean = 平均 S. D. = 標準偏差 max = 最大値 min = 最小値

EAT-26高得点群では、体重、BMIともに有意な差は認められなかった。

#### (2) 1年間の体重変化

表2に、1年間の体重変化量を示した。

痩せ群は体重が $0.3 \pm 1.7$ kg減少しており、全体と比べて危険率5%で有意であった。また痩せ群55名のうち26名 (47.2%) は体重が増加したが、全体の増加率の増加量 ( $2.1 \pm 2.5$ kg) と比べてその変化量は小さく ( $1.1 \pm 0.8$ kg)、危険率5%で有意であった。

肥満群では、38名のうち12名 (31.5%) に体重減少がみられ、その変化量 ( $-5.3 \pm 4.1$ kg)

は全体の変化量 ( $-1.8 \pm 1.7\text{kg}$ ) に比べて危険率0.1%で有意であり、肥満群の方が大きかった。しかし、肥満群の中の体重増加群は全体の増加群の増加量 ( $2.1 \pm 2.5\text{kg}$ ) と比べてその変化量 ( $4.6 \pm 7.2\text{kg}$ ) は大きく、危険率0.1%で有意であった。

EAT-26高得点群では、31名のうち22名 (70.9%) が  $3.4 \pm 5.1\text{kg}$  増加し、全体の増加群と比べてその増加量は大きく、危険率5%で有意であった。

また1年次のBMIが17.6以下の痩せだった63名中22名 (35%) が2年次に普通の範疇になり、1年次のBMIが26.4以上の肥満だった35名中9名 (25.8%) が2年次には普通の範疇になっていた。

この研究の対象である痩せ群 (55名) では、41名 (74.5%) が1年次も痩せており、肥満群 (38名) も26名 (68.4%) が1年次も肥満であった。

表2 一年間の体重変化量

\* :  $P < 0.05$   
\*\*\* :  $P < 0.005$

			Mean	S. D.	
全 体	全体	n = 899	0.39	2.93	
	体重減少群	n = 380	-1.83	1.73	
	体重増加群	n = 498	2.12	2.54	
EAT 高得点群	EAT 高得点群	n = 31	1.67	5.10	*
	体重減少群	n = 9	-2.40	1.68	
	体重増加群	n = 22	3.35	5.08	*
痩 せ 群	痩 せ 群	n = 55	-0.29	1.71	
	体重減少群	n = 28	-1.58	1.33	
	体重増加群	n = 26	1.10	0.75	
肥 満 群	肥 満 群	n = 38	1.33	7.75	
	体重減少群	n = 12	-5.30	4.14	
	体重増加群	n = 25	4.60	7.15	
5 kg 以上減少群	n = 17	-7.19	2.55		
5 kg 以上増加群	n = 30	8.36	6.61		

### (3) EAT-26 (摂食態度調査) 結果

#### 1) EAT-26得点

表3に、EAT-26の得点を示した。対象者全体 (899名) の得点は、 $5.5 \pm 6.0$  (平均±標準偏差) で、20点以上の高得点者は31名 (3.4%) であった。

5 kg以上減少群は  $7.1 \pm 5.7$  で、対象者全体との間に有意な差は認められなかったものの高い

傾向がみられた。5 kg以上増加群では $8.9 \pm 7.5$ で、危険率5%で有意であり対象者全体より高い値であった。

痩せ群は、 $4.5 \pm 3.9$ でやや低い傾向がみられたが有意な差は認められなかった。また肥満群は、 $7.8 \pm 5.8$ で危険率5%で有意であり対象者全体より高い値であった。

20点以上の高得点者は、5 kg以上増加群、痩せ群、肥満群に1名ずつ認められた。

表3 EAT-26得点表

\*:  $p < 0.05$

	Mean	S. D.	max	min	F	t		EAT 高得点者数
全 体 n = 899	5.52	5.98	38	0				31 (3.4%)
5 kg以上減少群 n = 17	7.11	5.68	18	0	0.95	1.08		0 (0.0%)
5 kg以上増加群 n = 30	8.90	7.46	38	0	1.60	3.01	*	1 (2.6%)
痩 せ 群 n = 55	4.54	3.94	23	0	0.44	1.19		1 (4.3%)
肥 満 群 n = 38	7.81	5.78	22	0	0.95	2.31	*	1 (4.5%)

F: 分散分析      t: t検定

## 2) EAT-26高得点項目

表4は、EAT-26で得点の高かった項目を順に並べたものである。

対象者全体の46.1%が体重が増えることを心配し、もっと痩せたいと44.2%が望んでおり、実際にダイエットに励むものは11.7%であった。また、制止できない大食経験のあるもの13.0%、胃の空虚感を好むもの9.5%、食後の罪悪感を有するもの3.3%、食後の嘔吐衝動を有するもの1.8%、食後の嘔吐経験を有するもの0.5%であった。

5 kg以上減少群は、70.5%がもっと痩せたいと望んでおり、ダイエットに励むものは17.6%であった。また体脂肪が気になるものが41.1%、制止できない大食経験のあるものは、17.6%であった。

5 kg以上増加群では、76.4%が体重が増えることを心配し、もっと痩せたいと66.6%が望んでいた。また運動でカロリーを消費できると53.3%が考えており、制止できない大食経験のあるもの26.6%、食後の罪悪感を有するものは13.3%みられた。

痩せ群では、54.5%が他人から痩せすぎと思われる、45.4%がもっと食べるよう望まれているというように、約半数が痩せを感じているが、痩せ願望も9.0%みられた。

肥満群は、体重増加の心配と痩せ願望を有するものの2項目が73.6%であり、ダイエットに励むものは26.3%、試食を避けるもの21.0%、空腹でも食事を避けるものは7.8%であった。

EAT-26高得点群では、体重増加の心配は96.7%、痩せ願望が90.3%、体脂肪が気になるは



80.6%，運動でカロリーを消費できるが77.4%，ダイエットに励むは74.1%であり，以上の5項目が70%以上であった。また，食べ物に振り回されていると答えたものは，48.3%みられた。

### 3) EAT-26の項目別頻度

EAT-26の各群別項目別の結果は，資料2のとおりである。

対象者全体（899名）と比較した結果，5 kg以上減少群，5 kg以上増加群，痩せ群，肥満群，EAT-26高得点群の5群すべてと有意に差が認められ，5群の方が割合の高かった項目は，制止できない大食，食べ物のカロリーに気を配る，他人はもっと食べるように望んでいる，痩せ願望，体脂肪がついている，食べ物に振り回されている，食べ物について考え過ぎる，ダイエットに励むの8項目であった。

また，EAT-26高得点群が全体に比べて有意に認められた項目は，空腹でも食事を避ける，食べ物を小さく切り刻む，ダイエット食を食べている，胃の空虚感が好き，食後の嘔吐の5項目であった。

## 4. 考 察

### (1) 女子短大生の EAT-26

対象者全体の EAT-26 の平均得点は  $5.5 \pm 6.0$  で，佐々木ら<sup>7)</sup> の報告の大学生の平均 ( $5.5 \pm 5.5$ ) とほぼ同じであった。また坪井ら<sup>8)</sup> は EAT-26 を 100 点法で表し，女子学生の平均 ( $22.4 \pm 15.3$ ) を報告しているが，今回の結果を 100 点法で換算すると  $21.2 \pm 9.2$  となり，危険率 5% で有意であり，今回の調査のほうが低い結果となった。一方今回の調査での 20 点以上の高得点者は，31 名 (3.4%) であり，坪井ら<sup>8)</sup> の報告 (3%) と近似していた。

佐々木や坪井の調査は 4 年生大学で実施されたものなので，EAT-26 の得点平均は，女子短大生の方が 4 年生大学の女子学生より低いことになるが，調査大学の地域差，共学と女子大の違い (男子学生の目を気にするか否か)，年齢差などが関係していると思われる。

一方全体の約 46% が体重増加を心配し，かつ痩せ願望を抱いており，実際にダイエットをしているものは約 12% であった。これは中野らの報告<sup>9)</sup> や筆者の以前の報告<sup>10)</sup> と類似している。青年期は，心理的課題として自我の確立，自立についての問題を抱えている時期であり，他の女性の方が魅力があると意識し，自意識過剰となる<sup>3)</sup> 時期である。約 46% が痩せ願望を抱いても当然なのかもしれない。また，制止できない大食の経験は 13% に，食後の罪悪感や食後の嘔吐衝動，食後の嘔吐経験も若干見られ，摂食障害の予備軍が存在することを示唆していると思われる。

### (2) 体重変動量と EAT-26

前述のように女子短大生の EAT-26 の得点平均 ( $5.5$ ) と比較すると，5 kg 以上増加群のは

8.9と高く、5 kg以上減少群も7.1で有意な差は認められなかったものの高い傾向がみられ、また5 kg以上減少群、5 kg以上増加群とも約70%が痩せ願望をもち、約40%が体脂肪が気になるかと答えていた。また、食後の嘔吐経験はほとんど無いものの、制止できない大食経験、食後の罪悪感、食べ物で頭が一杯など異常度の高い食行動は、平均より多かった。

摂食障害の病理は、青年期に自立的な行動を要請され、自分でどう対処したらよいか判らなくなった時、退行的に手近にある食に目が向き、自分の意思で行うことが可能な食事を制限し、身体をコントロールすることで自己主張の証しとするとされている。<sup>1)3)11)</sup>

5 kg以上減少群のMMPIの特徴は、心理的動揺の体験、気にしやすい、神経過敏、強迫観念、不満が多いなどがあり、5 kg以上増加群は、よく適応している面と、うまく適応していない面の両面をもっていると考えられ<sup>5)</sup>、これらの心理的特徴が、食行動に表れるために、EAT-26の得点が平均より高くなったのではないかと思われる。

一方、EAT-26高得点群では約70%が1年間に平均3.4kg体重が増加し、全体の増加群と比べて変動量が大きかったが、5 kg以上増加群の中に高得点者が1名認められただけであり、1年間の体重変動の大きさがそのまま食行動の異常に結びつく訳ではなかった。

### (3) 体型と EAT-26

痩せ群のEAT-26は、平均4.5でやや低い傾向がみられ、肥満群は、平均7.8と対象者全体より高い値であったが、青年期はマスコミの影響を最も受けやすい時期であり、近年の痩せ志向の風潮の中では予測された結果であった。しかし、肥満群ではダイエットに励むものは26%しかなく、痩せ願望や体重増加の心配を抱くものが73%もありながら、減量を実行するものは少ないようである。肥満者の心理的特徴としては、自己非難の傾向、不満の表明避ける、集団を好む、自分の努力で問題を解決することが少ない……などがあり<sup>12)</sup>、これらの心理的影響が食行動に表れていると思われる。

極端な食事制限をせずに健康的に減量すれば安心であるが、肥満群の中には、空腹でも食事を避けたり(約8%)、制止できない大食の経験(約11%)、食後の嘔吐衝動、食後の罪悪感、食べ物で頭が一杯など異常度の高い食行動は平均より多く、プレミア予備軍も潜んでいると思われる。

一方痩せ群においても、痩せているのに痩せ願望をもつものが9%あり、20点以上の高得点者も1名認められることから、アノレキシア予備軍が含まれていると考えられる。

## 5. ま と め

女子短大生899名を対象に、体型、体重変動、食行動について検討した。

(1) 対象者(899名)のEAT-26の得点平均は、 $5.5 \pm 6.0$ で、高得点者は3.4%であった。

- (2) EAT-26が平均より高かった群は、5 kg以上増加群と肥満群で、5 kg以上減少群では高い傾向がみられた。
- (3) EAT-26高得点者は、5 kg以上増加群、痩せ群、肥満群に1名ずつ認められたが、その出現率は全体とほぼ同じであった。
- (4) EAT-26高得点群では、空腹でも食事を避ける、食べ物を小さく切り刻む、ダイエット食を食べている、胃の空虚感が好き、食後の嘔吐の5項目を認める割合が全体と比べて高かった。
- (5) EAT-26高得点群の48%が、自分の人生は食べ物に振り回されていると感じていた。
- (6) EAT-26高得点群の体型は普通であったが、71%は1年次より体重が増加し、その増加量の平均は3.4kgであった。
- (7) 痩せ群、肥満群ともに約70%は1年次と体型が変わっていなかった。

今回は、EAT-26高得点群にだけみられる項目や、異常度の高い項目について詳しく検討したい。

#### 参考文献

- 1) 岡部祥平：摂食障害，性格心理学新講座第3巻，適応と不適応，金子書房，227-241，1989.
- 2) 斎藤学：家族依存症－仕事中毒から過食まで－，誠信書房，1992.
- 3) Marlene Boskind White, William C. White 著 杵渕幸子，森川那智子，細田真司，久田みさ子（訳）：過食と女性の心理，星和書店，1991.
- 4) 石田妙美：体重変動過多な女子短大生の心理的特性－P-F Study（青年用）を用いて－，東海学園女子短期大学紀要，28，49-63，1993.
- 5) 石田妙美：体重変動過多な女子短大生の心理的特性(2)－MMPIを用いて－，東海学園女子短期大学紀要，29，83-92，1994.
- 6) Garner DM et al: The eating Attitudes Test, psychometric features and clinical correlates, Psychological Medicine, 12-871, 1982.
- 7) 佐々木大輔，遠山宣哉：摂食障害について，第29回全国大学保健管理研究集会報告書，全国大学保健管理協会，91-94，1991.
- 8) 坪井康次，中野弘一，篠田璋一：大学生の生活習慣に関する調査，第32回全国大学保健管理研究集会報告書，全国大学保健管理協会，181-184，1994.
- 9) 中野弘一，坪井康次，篠田知璋：大学生の生活習慣（ライフスタイル）ならびに食行動に関する調査，第30回全国大学保健管理研究集会報告書，全国大学保健管理協会，296-298，1992.
- 10) 石田妙美，村松園江：女子短大生の自分の身体及び食生活に関する意識調査，第28回全国大学保健管理研究集会報告書，全国大学保健管理協会，226-299，1990.
- 11) 渡辺久子：摂食障害－肥満とやせ，新・医療心理学読本，からだの科学増刊10，日本評論社，176-179，1989.
- 12) 石田妙美：女子短大生のP-F Study－体型別，体重変動別検討およびMMPI，TEGとの関係－，明星大学卒業論文，1993.
- 13) 高橋三郎（訳）：DSM-III-R 精神障害の診断・統計マニュアル，医学書院，1990.



資料1

No. \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_

☆現在の体重 \_\_\_\_\_ kg 身長 \_\_\_\_\_ cm

☆過去最大の体重 \_\_\_\_\_ kg ( S・H 年 月 )

☆過去最低の成人体重 \_\_\_\_\_ kg ( S・H 年 月 )

◎次の文章の回答らんの、最もあてはまるものを選んで○でお答え下さい。

\* 全くない  
\* まれに  
\* ときどき  
\* しばしば  
\* 非常にしばしば  
\* いつもそう

- 4. 体重が増えすぎるのではないかと心配します。 . . . . .
- 5. 空腹の時でも食事をさけます。 . . . . .
- 6. 食べ物のことで頭が一杯です。 . . . . .
- 7. 制止できそうにないと思いながら、大食したことがあります。 . . . . .
- 8. 食べ物を小さく切りざみます。 . . . . .
- 9. 私が食べている食べ物のカロリー盤に気をくばります。 . . . . .
- 10. 炭水化物の多い食べ物（例えば、パン・ジャガイモ・御飯など）は特にさけます。 . . . . .
- 12. 他の人は、私よりももっと食べるように望んでいるようです。 . . . . .
- 13. 食後に吐きます。 . . . . .
- 14. 食後にひどくやましいことをしたように思います。 . . . . .
- 15. もっとやせたいという思いで、頭が一杯です。 . . . . .
- 22. 運動をすればカロリーを使い果たすと思います。 . . . . .
- 24. 私はやせすぎていると皆から思われています。 . . . . .
- 25. 自分の体に脂肪がついているという考えのとりこになっています。 . . . . .
- 26. 他の人よりも食事に時間がかかります。 . . . . .
- 29. 砂糖の入った食べ物をさけます。 . . . . .
- 30. ダイエット食（美容食）を食べています。 . . . . .
- 31. 私の人生は食べ物にふりまわされていると思います。 . . . . .
- 32. 食べ物に関するセルフ・コントロール（自己制御）をしています。 . . . . .
- 33. 他の人達が、私に食べるように圧力をかけていると思います。 . . . . .
- 34. 食べ物に関して時間をかけすぎたり、考えすぎたりします。 . . . . .
- 36. 甘い物を食べた後、不愉快な気持ちになります。 . . . . .
- 37. ダイエット（食事制限）にはげんでいます。 . . . . .
- 38. 胃の中が空っぽになるのが好きです。 . . . . .
- 39. 栄養価の高い物が新しく出ても、試食したくありません。 . . . . .
- 40. 食後に吐きたいという衝動にかられます。 . . . . .

資料2 EAT-26の結果一覧

	4. 体重の増加が心配			5. 空腹時でも食事を避ける			6. 食べ物で頭が一杯			7. 制止できぬ大食あり			8. 食べ物を小さく切り刻む		
	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば
全体 n = 899	18.4	8.7	18.9	0.3	0.8	2.6	0.6	1.8	5.6	1.8	2.4	8.6	0.5	0.6	4.5
5 kg以上減少群 n = 17	17.6	5.8	23.5	0.0	0.0	5.8	0.0	0.0	0.0	5.8	0.0	11.7	0.0	0.0	0.0
5 kg以上増加群 n = 30	46.6	16.6	13.3	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	6.6	3.3	3.3	23.3	0.0	0.0	0.0
痩せ群 n = 55	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	7.2	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	5.4
肥満群 n = 38	47.3	15.7	10.5	0.0	0.0	7.8	2.6	0.0	0.0	5.2	0.0	5.2	0.0	0.0	2.6
EAT 高得点群 n = 31	70.9	12.9	6.4	3.2	6.4	19.3	12.9	6.4	25.8	12.9	9.6	22.5	9.6	0.0	19.3

  

	9. カロリーに気を配る			10. 炭水化物を避ける			12. 他人から食べよう望まれる			13. 食後に嘔吐あり			14. 食後に罪悪感あり		
	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば
全体 n = 899	2.0	3.4	9.1	0.5	0.5	2.5	1.8	1.6	3.7	0.1	0.1	0.3	0.8	1.1	1.4
5 kg以上減少群 n = 17	0.0	5.8	23.5	0.0	0.0	11.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	0.0	0.0
5 kg以上増加群 n = 30	6.6	3.3	16.6	0.0	0.0	10.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3	6.6
痩せ群 n = 55	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	12.7	7.2	25.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
肥満群 n = 38	0.0	0.0	13.1	0.0	0.0	7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	2.6
EAT 高得点群 n = 31	32.2	29.0	6.4	9.6	9.6	19.3	9.6	6.4	6.4	3.2	0.0	0.0	16.1	12.9	6.4

	15. 痩せ願望			22. 運動でカロリー消費			24. 痩せ過ぎと思われている			25. 体に脂肪がついている			26. 食事に時間がかかる		
	いつも	非常にしばしば	しばしば	いつも	非常にしばしば	しばしば	いつも	非常にしばしば	しばしば	いつも	非常にしばしば	しばしば	いつも	非常にしばしば	しばしば
全体 n = 899	19.0	11.5	13.6	10.9	9.6	18.1	2.4	2.4	3.0	8.0	7.4	9.2	6.1	5.4	8.6
5 kg以上減少群 n = 17	17.6	17.6	35.2	0.0	17.6	11.7	5.8	0.0	0.0	11.7	5.8	23.5	23.5	5.8	5.8
5 kg以上増加群 n = 30	36.6	13.3	16.6	10.0	3.3	40.0	0.0	10.0	3.3	13.3	10.0	16.6	3.3	6.6	6.6
痩せ群 n = 55	1.8	1.8	5.4	5.4	12.7	16.3	21.8	18.1	14.5	1.8	0.0	3.6	16.3	9.0	16.3
肥満群 n = 38	36.8	18.4	18.4	10.5	13.1	15.7	2.6	2.6	2.6	18.4	18.4	10.5	5.2	5.2	2.6
EAT 高得点群 n = 31	90.3	6.4	0.0	51.6	19.3	6.4	9.6	3.2	0.0	58.0	16.1	6.4	16.1	16.1	6.4

	29. 砂糖の食べ物を避ける			30. ダイエット食を食べる			31. 食べ物に振り回されている			32. 食べ物のセルフコントロール中			33. 他人は食べるよう圧力をかける		
	いつも	非常にしばしば	しばしば	いつも	非常にしばしば	しばしば	いつも	非常にしばしば	しばしば	いつも	非常にしばしば	しばしば	いつも	非常にしばしば	しばしば
全体 n = 899	0.6	1.5	4.2	0.2	0.3	1.1	1.2	1.3	3.5	1.4	3.3	6.6	0.2	0.4	1.1
5 kg以上減少群 n = 17	0.0	0.0	0.0	5.8	0.0	0.0	5.8	0.0	0.0	0.0	11.7	11.7	0.0	0.0	0.0
5 kg以上増加群 n = 30	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	3.3	3.3	0.0	6.6	3.3	6.6	3.3	0.0	0.0	3.3
痩せ群 n = 55	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	3.6	3.6
肥満群 n = 38	0.0	0.0	5.2	0.0	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	7.8	0.0	0.0	0.0
EAT 高得点群 n = 31	6.4	3.2	25.8	0.0	6.4	12.9	22.5	9.6	16.1	12.9	25.8	19.3	6.4	0.0	9.6

	34. 食べ物を考えすぎる			36. 甘いものを食べた後不愉快になる			37. ダイエットに励む			38. 胃の中が空っぽが好き			39. 試食を避ける		
	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば	いつも	非常に しばしば	しばしば
全体 n = 899	0.4	0.7	2.1	1.2	1.6	1.8	2.2	2.6	6.8	1.2	1.1	2.2	2.3	2.1	5.1
5 kg 以上減少群 n = 17	0.0	0.0	5.8	11.7	0.0	0.0	11.7	0.0	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	11.7
5 kg 以上増加群 n = 30	3.3	0.0	3.3	3.3	0.0	0.0	10.0	6.6	10.0	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
痩せ群 n = 55	1.8	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	5.4	0.0	0.0
肥満群 n = 38	2.6	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0	2.6	10.5	13.3	0.0	0.0	2.6	5.2	5.2	10.5
EAT 高得点群 n = 31	9.6	16.1	16.1	16.1	9.6	9.6	38.7	12.9	22.5	19.3	6.4	0.0	19.3	3.2	6.4

	40. 食後に嘔吐したい衝動がある		
	いつも	非常に しばしば	しばしば
全体 n = 899	0.3	0.4	1.1
5 kg 以上減少群 n = 17	0.0	0.0	0.0
5 kg 以上増加群 n = 30	3.3	6.6	0.0
痩せ群 n = 55	0.0	0.0	0.0
肥満群 n = 38	0.0	5.2	0.0
EAT 高得点群 n = 31	3.2	3.2	3.2